

令和3年  
56号

## いちいの会だより

ICHIINOKAI VOL. 56



## ご挨拶

社会福祉法人いちいの会 理事長 児嶋 政明

皆さま、こんにちは。春爛漫の中で、4月から新年度になりました。日頃より当法人の運営にご理解とご支援をたまり厚く御礼申し上げます。

昨年度は、新型コロナウイルスに明け暮れた1年でしたが、法人として策定した感染症対策などにもとづく対応を進めてまいりました。

おかげさまで、くすのき苑、ワークショップ、グループホーム、のだネット、相談支援センターの5つの事業は、法人の基本理念である「利用者第一の充実した支援サービス」「地域福祉への貢献」「やりがいと研鑽そして笑顔の職場」のもと、順調に運営を続けることができました。

また、利用者にとっての快適な利用環境の整備と、職員が気持ちよく働ける職場環境の整備を進めました。具体的には、老朽化したグループホームの代替のための土地・建物を取得するなど設備投資や改修・修繕を進めるとともに、処遇改善加算をもとに職員の給与を増額いたしました。

新年度は、5つの事業を前向きに工夫を凝らして運営するとともに、引き続き防疫・防災対策の推進、ガバナンスの強化と透明性の確保、人材の確保・育成、地域社会に貢献する取組みなどを進めてまいります。環境整備の面では、4月から給与のベースアップ、5月にグループホームもくれんの開所、7月にはくすのき苑の非常用発電設備の完工を予定し、くすのき苑中庭の増築工事にも取り組みます。

経済的には、収入の伸びが限られている一方で人件費や設備投資などの支出が高むことが見込まれ、経営は楽ではありませんが、厳しい環境の中、慎重に舵を取ってまいります。

新年度も役職員一同力を合わせ、基本理念のもと着実な努力を重ねていく所存ですので、皆さまには引き続きのご理解とご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

## ●目次●

◇理事長挨拶	1
◇各事業所より	2,3
◇作業班再編成 職員日記	4
◇行事報告	5
◇新グループホーム 行事報告 編集後記	6





# 新年度を迎えて

## くすのき苑

くすのき苑 副施設長 戸辺 泰介

平素よりいちいの会及びくすのき苑の運営にご協力いただき有難うございます。

新型コロナウイルスの流行と、それに伴った生活の変化が始まって、早くも1年が過ぎました。

この原稿を書いている3月中旬、政府では緊急事態宣言の取り扱いについて揺れているようですが、当苑では引き続き、徹底した感染対策を続けています。

晩秋から初冬にかけて、近隣の施設、学校等に次々と罹患者が現れていた中、皆様の真摯なご協力もあり、何とか、くすのき苑内にはウイルスが持ち込まれること無く、ここまで至ることが出来ました。どうも有難うございます。今後も油断せず、新年度を迎えたいと思います。

ワクチン接種等の動きも現時点では不明確な点も多いですが、とりあえずは可能性が見えてきたように思います。コロナウイルス流行以前の生活に戻れるきっかけとして期待をしております。

逆に、この一年間、衛生管理を徹底した結果、インフルエンザやノロウイルス等の感染症はもちろん、例年と比較して、体調を崩す利用者の方や職員が非常に少なかった印象です。

その点では、今回の感染症対策を通して、安心安全なサービス提供のための、一つの学びを得たように感じております。

## ワークショップくすのき

ワークショップ 副施設長 大谷 篤司

なんだかよくわからない怖いウイルスが蔓延し始めている。1年くらい前はそう思っていました。これまでに、近隣の施設や病院から、感染情報やクラスターが発生したことを聞かされた時、私たちも、いつどこで感染してしまうかわからない怖さに大きな不安を抱く日々を過ごしています。

ワークショップくすのきでは、今年度、利用者の皆様のニーズに対応するため、送迎サービスの拡充や稼働日を増やしていくことを検討します。また、利用者の皆様が安全に通うことのできるようコロナ対策を継続していき、その中で、意欲をもって作業に臨むことができるよう、楽しめる行事を企画していきたいと考えています。

1年程前、「なんだかよくわからない怖いウイルス」と思っていた時と比べ、少し落ち着いて今の情勢を見ることができているように感じます。それは、慣れもあるかもしれませんが、予防に対する知識を身につけ、ワクチンが打てる見通しがついてきたからではないでしょうか。

私たちの仕事や支援も同様、知識と見通しをつけていくこと、大変な思いをした経験のある方々から話を聞くこと。それがどれだけ自分自身の身となるのか。まだまだ知識・経験不足の私たち。今、苦しい思いをするときもあるかもしれませんが、沢山のことを身に着けていかななくてはなりません。未来の自分たちのために。



## グループホームかえて

生活支援係長 金 隆史

新型コロナウイルスが蔓延する中、2度目の春を迎えました。振り返ると、昨年度は未知のウイルスへの対応に追われ、その中で生活の在り方について考えさせられる1年でした。まだまだ予断を許さない状況が続いています。引き続き気を引き締めて取り組んでまいりたいと思います。

法人では平成18年9月より「グループホームかえて」の開所を皮切りに共同生活援助事業が始まりました。現在では5ホームの運営を行っています。建物の中には、入居者の皆様の生活に影響が出るほどに老朽が進んだものもあり、昨年度よりその対応を行ってきました。今年3月、市内に築浅で、設備の十分に整った物件を購入しました。5月の開所を目指し、現在準備を進めております。グループホームの建物にはまだ他にも老朽が顕著な建物もあります。また、今後入居者の皆様の身体機能の低下が予想され、現在の設備では対応が困難となってくるのではないかと考えています。目の前の課題に対しても対応しつつ、数年後の入居者の皆様の様子をイメージしながらの準備を今年度より始めていきたいと思っています。

私自身、共同生活援助事業所の担当となり、3年目を迎えます。共同生活援助事業に触れ、徐々にではありますがその重要性について理解できるようになってきました。

初心の気持ちを忘れず、またこれまでの経験で感じてきたものを実現できる1年にしていきたいと思っています。

## 中核地域生活支援センターのだネット

地域総合コーディネーター 五十嵐 孝子

昨年度は新型コロナウイルスの影響で色々な活動が制限されました。その中でも十分な感染症対策を取りながら必要な支援を進めてきました。今後も油断することなく感染対策に取り組んでいく所存です。

今年度、のだネットで大きく変わることはグループホーム等支援事業の受託を取りやめた事です。この事業は他の事業所をお願いする事になりましたが、今後も連携して、障がいを持つ方が地域で暮らすための支援に取り組んでいきます。

また、今年度から「重層的支援体制整備事業」が希望する市町村で実施されます。8050問題やダブルケアなど今日の多様化・複雑化した福祉ニーズに対応するため、既存の高齢・児童・障がい等の制度ごとの縦割りを超えて包括的に関わる新たな相談支援の仕組みです。この事業は「相談支援」「参加支援」「地域づくりに向けた支援」に取り組むことになっており、この事業を野田市が取り組むことになれば、のだネットのバックアップが必要になると考えられます。

今後も皆さんの期待に応えられるように頑張ってまいります。

## 相談支援センターいちいの木

相談支援専門員 中村 成彦

昨年度は新型コロナウイルスの影響で会議・連絡会・研修会が中止となることが多かった。相談支援センターいちいの木でも毎年研修会を2回開催していた。児童支援の関係機関向けの研修会で、療育をテーマにしていた。今年度はコロナ禍で開催を中止し、講師作成の資料を野田市内の学校・幼稚園・保育園・施設等に送り、研修会の代替を行った。様々な家庭・事業所等に訪問して気付いたのが、コロナ禍で、3密を防ぐために事業所は面談室にボードを設置していることが多く、窓を開け換気をしていた。マスクの着用、アルコール消毒、来訪者の記名と検温をしてから訪問が主体となっていた。家庭では、気が緩むのか面談時にマスクの着用をしていない方もいたが、気付くとすぐに着用していた。今まで週末に外食や買い物に出掛けていた障がい者の方も出掛けられずに、自宅内で過ごす方が多くストレスが溜っている様子だった。事業所や家庭に訪問する前に、手・衣服のアルコール消毒を行い、訪問後も同様にアルコール消毒を行っている。昨年4～5月の緊急事態宣言の時には、対策が進んでいなかったため、事業所の外で面談することも多かった。現在は、対策されているため、問題無く訪問は出来ているが、早くワクチン接種等を行い、コロナ禍前の生活に戻ることを、令和3年度は期待しています。







## 作業班再編について

第2支援係長 伊藤 雅章

利用者の皆様の中で大きな割合を占めているのが日中活動です。これまでくすのき苑では3つの班に分かれて活動してきましたが、高齢化や個々の特性を配慮していく中で活動の見直しを行い、約10年ぶりに新しい作業班を編成することとなりました。

職員間でイメージを共有していくことから始まり、実際に利用者の皆様の交えての活動の試行などを経て、4月より動き出しました。職員、利用者の皆様共にまだ迷ってしまうこともありますが、少しずつ形になってきたのかなと思います。

新しいことに挑戦することに対して、職員の中で期待に交じり大きな不安が見え隠れしていました。これまでよりも綿密なやり取り、利用者の皆様への対応、その場その場での臨機応変さ、問題が起きた時のフィードバック。周りの職員もフォローや助言をしてくれたりと苑全体で取り組んでいました。それでも「こんなことはどうだろう？自分はこれをやってみたい！」と意見を出してくれた若い職員たちのまなざしと、とまどいながらも「今日は何するの？」とワクワクしながら過ごしてくれている利用者の皆様がいました。まだスタートラインだと思いながらも、楽しみな気持ちを抱きながら見守っていきます。

活動の内容については、落ち着いたころにまたお伝えさせていただきます。



## 職員日記

ワークショップ生活支援員 堀池 豊

近年外出にも特に気にしないといけない情勢が続いていますね。

利用者の皆様の健康面や体調面の安全は、職員が守っていかないとはいけません、そのためには職員の健康や体調を今まで以上に管理し、病気やウイルスを持ち込まないように頑張っていきたいと思います。万が一新型コロナウイルスに感染してしまった際にも利用者の皆様や、他の職員にうつさないように、手洗いうがい・アルコールなどでの殺菌消毒を徹底していこうと思います。

コロナウイルスの第2波、第3波によって緊急事態宣言も再度発令、発令時よりも数は大幅に減ってきていますが油断はできませんね。ワクチンが普及し始めていますが、摂取できる人数や副反応などにも多くの問題点が見られとても不安になります。

今まで出来ていた外出や外食・旅行など、いろんなことを節制していかないとはいけない今日この頃ですが、家で出来る趣味を見つけていかないとなと感じました。

昨今と新型コロナウイルスなどの感染症が世界に蔓延っていますが。また前の生活に戻れるように1日でも早い感染症の終息を心から願っています。



# 行事アルバム

## クリスマス会・忘年会

昨年は変化の多い1年でしたが、変わらずにやってくるクリスマス。クリスマスにはバスをクリスマス仕様にしてドライブをしました。お楽しみのケーキも食べて大盛り上がり。1年の締めめの忘年会では、豪華な食事をして、ストレス解消をしました。今年はコロナが落ち着きますように。

生活支援員 滑川 雄介



## 初詣

お正月といえば初詣。お手製のくすのき神社にお参りに行き、みんなで新しい1年の幸せを祈願しました。おみくじで今年の運勢を占い、甘酒やおいしい和菓子を食べてプチ宴会。素敵な新年のスタートです。

生活支援員 網谷理香



## 新年会

コロナ禍だって新しい年はやって来る。健康で楽しい1年にするために、今年も実施しました、新年会。思いや願いを綴った書初め。お化粧品をして着物を着ておめかし。手作り、だからこっそりクリーム増量もOKなクレープパーティー。楽しい年を創る1年の始まりです。

主任生活支援員 秋山 直樹

## 節分・豆まき

毎年くすのき苑にくる鬼は獰猛です、皆に恐れられています。特に今年は新型コロナウイルスの脅威も引き連れてきたので、利用者の皆様は例年以上に力強く鬼に向かって豆を投げていました。皆の願いが叶って早く終息してほしいですね、本当に切に願っています…。

第1支援係長 山田 宗成



## ビンゴ大会

毎月恒例！ピリブ班レク。今回はビンゴ大会を行いました。景品として沢山のお菓子と、上位5名にはケーキを準備しました。ビンゴカードを見つける利用者の皆様の眼差しは真剣そのもの。おやつに景品のお菓子とケーキを仲良く食べました。

生活支援員 柳瀬 菜





新年度のスタートにふさわしく5月より野田市尾崎台に「グループホームもくれん」がオープンします。「もくれん」は、川間駅北口より徒歩で15分程の閑静な住宅街にあり、近隣には大きな公園やドラッグストア、スーパーマーケット等、生活環境が揃っています。また、100坪と広い敷地に、5LDKの間取り、ソーラーパネルやオール電化対応と、生活するうえでの設備も整っています。しかし元々は一般住宅として建てられたものであるため、スプリンクラーや災害時の非常用電話回線といった消防設備の新設等、慣れない作業ではありますが、職員総出で準備をしています。

「もくれん」には、これまで法人の運営する別のグループホームに入居していた方5名が移り住むこととなります。これまで慣れ親しんだ生活環境が一変することで不安を感じてしまう方もいるかもしれません。建物の準備は順調に進んでいますが、そこに移り住む利用者の皆様の心のケアは十分ではないように感じています。入居する5名のうち、大半は自閉症のある方たちです。生活環境が変わることは、私たちも同じですが、特に自閉症のある方にとっては難しいものがあります。職員としては、利用者の皆様が新しい生活様式に慣れていただけるのかという不安でいっぱいです。

開所まで日は迫っていますが、利用者の皆様が安心して新たな生活をスタートできるように物心両面での準備をしていきたいと思っております。

グループホーム 主任生活支援員 小島 陽子



**永年勤続20年表彰**

総合施設長	清本 健二郎
管理課長	杉山 芳江
くすのき苑副施設長	戸辺 泰介
ワークショップくすのき副施設長	大谷 篤司
のだネット	金城 和子
看護師	竹之内厚子
生活支援員	張ヶ谷カツ
生活支援員	大橋 宣彦
生活支援員	古橋 一江
生活支援員	川島ゆかり

**行事報告**

1月	第3者報告会
2月	第3者報告会
3月	健康診断 PCR検査実施 理事会・評議員会(電話会議)

**編集後記**

少し前に東野圭吾の十字屋敷のピエロという本を読みました。この本はミステリー小説なのですが、合間合間に屋敷に置かれたピエロ人形の視点で事件の一部を見る事ができるという、変わった要素を含んでいて個人的に面白かったです。コロナで外出できない今、家でゆっくり読書してみたいかがでしょうか。(清宮)

先日、新しいゲームを購入しました。家に帰るとゲームをひたすらやる日々が続いています。もうやめようかと思っても、あと少しが何時間も続き、なかなかやめられません。ゲームをしながらエナジードリンクを飲む。これが私の今の楽しみです。(藤川)

**社会福祉法人 いちいの会 くすのき苑**

〒270-0222 千葉県野田市木間ヶ瀬3121  
TEL:04-7120-6667  
FAX:04-7120-6668

発行責任者 総合施設長 清本 健二郎  
編集 広報委員会 清宮・藤川  
発行日 令和3年4月吉日